

② 国際社会の学習でのワンポイント活用例 ～機能を活用して効果的に「ディベート」を～


東京都品川区立豊葉の杜学園主任教諭 金城 和秀(きんじょう かずひで)

◆**単元名**：第6章 国際社会に生きる私たち 2 国際社会が抱える課題（教科書 pp.194-205）
（「⑤これからの資源とエネルギー」／「⑥『生命の星』を守るために」を中心に）

◆本時の目標：

ディベートを通して、世界平和の実現と人類の福祉の増大に関する国際社会の問題点を知り、国際社会における日本の役割について、多面的・多角的に考察する。

《本時の展開例》

	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材
導入 (5分)	●今日の学習内容・目標を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ディベートの論題を理解させ、流れを確認させる。 ディベーター（肯定派と否定派）と傍聴者（判定者）に分け、準備をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標や、論題に関する新聞記事資料などをスクリーンに表示し、印象づける。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ディベートを行う。 論題 『世界各国に自然エネルギーの導入を義務づけるべきである』 ①立論（3分×2） ②作戦タイム（4分） ③反論（3分×2） ④傍聴者からの質問、発言（4分） ⑤作戦タイム（4分） ⑥最終弁論（4分×2） ⑦判定（3分） 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが作成した資料（レジュメ）をなるべく活用して発言するように指導する。 肯定派、否定派それぞれの発言者がデジタル教科書を活用する場合は、時間に注意しながら使うように指示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書の「授業支援」パレットにある「タイマー」をスクリーンに表示し、時間の進行管理に活用する。  <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書〈p.202・4〉「主な鉱物資源の採掘可能年数」を映し出し、立論や反論の根拠として活用する。 デジタル教科書〈p.204・1〉「さまざまな地球環境問題」を映し出し、必要に応じて「関連資料」も用いながら、反論や最終弁論に活用する。
まとめ (10分)	●ディベートについて講評・まとめを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 論点整理を行い、どのような対立点があったのか確認させ、論題への最終的な自分の意見を整理させる。 	

◆指導にあたって：

- 本時は、学習指導要領の『大項目：私たちと国際社会の諸課題—中項目：世界平和と人類の福祉の増大』に対応した、第6章-2「国際社会が抱える課題」全体をディベートを通して学び、課題の解決に向けて考えを深めさせていく内容である。学習指導要領に基づいて、中項目の目標を習得できるディベートの論題を3本設定し、各班がそれぞれ肯定派と否定派に分かれて調べ学習を行う。
- 事前調査の資料の一つとして「デジタル教科書」も加え、生徒に内容や操作性を確認させつつ、ディベートの際にも主張の根拠となる資料として組み込んで活用できるよう指導する。
- 3本の論題のうちの一つについて紹介した今回の指導案のように、1時間で一つの論題についてのディベートを行い、その後アフターディベートを実施して振り返りを行うことで、単元目標の確実な習得を図る。

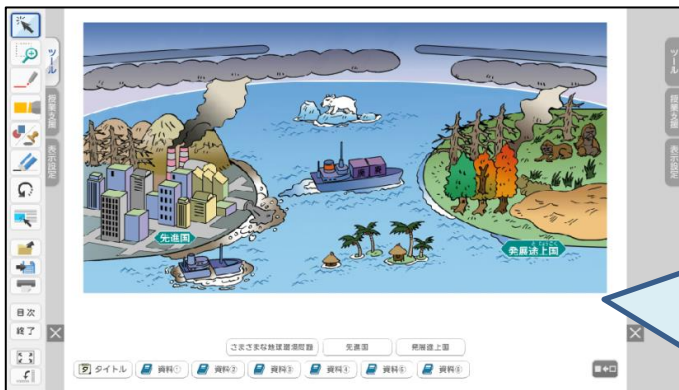
◆デジタル教科書活用のねらい：

- 本来は、生徒が作った補助資料（レジュメ）を中心に立論や反論、最終弁論を行っていくが、レジュメとともに「デジタル教科書」を生徒自身が自分たちの主張の際の資料として活用することで、より視覚的にわかりやすくディベートが展開でき、ディベーター同士や傍聴者の理解も深める。



▲ 「立論」で自分たちの主張を行う

▼ 「作戦タイム」での話し合い



資料提示：デジタル教科書 p.204・**1**
資料をクリックして拡大表示。

- ・下部にあるボタンを組み合わせながら、アニメーションで資料を表示。
- ・主張の内容に合わせて「関連資料①～⑥」を適宜表示し、根拠を補足する説明や解説を加えさせる。

◆生徒の反応：

- 今まではレジュメだけだったので、配布型の資料しか提示することができなかったが、デジタル教科書を活用することによって、動画や動きのある資料を使ってディベートができ、主張の内容もよく伝わった。
- 教科書の基本的な内容をデジタル教科書で提示するので、誰にとっても理解しやすい内容となっていた。

◆授業を終えての感想・今後の課題：

- 教師だけでなく、生徒自身が調べ学習などでデジタル教科書を使えるような活動場面を、今回の「ディベート」以外のほかの単元計画の中にも、もっと意図的に配置する工夫も必要だろう。そのためには、教師の側のデジタル教科書の機能の習得や、操作技術の向上がさらに必要である。